

## 『ゾンビサイド』 屍者たちのプロフィール

### ウォーカー/ 標準体



屍者に襲われた農民や職人、商人や街の住人のなれの果てだ。かつては夢や希望を胸に抱いて生きる、どこにでもいるような人間だったが、今は肉を喰らうことしか頭にない屍者になってしまった。俺たちはウォーカーと呼んでいる。一番数が多くて、一番愚かな屍者だ。だが侮るな。群れで襲われるとかなり危険だ。ともかくヤツらは数だけが多い。

### ランナー/ 俊足体



ランナーは速い、二本の脚で信じられない速度で走る。一度、馬を追い抜いたのを見たことがある。追い抜いたのは一瞬だけだったが、乗っていた騎兵を引きずり落とすにはそれで充分だった。

### アボミネーション/変異体



アボミネーションを見たことがない？ それはお前さん、幸運だ。見たら一発でわかる。武器は効かない。鎧も無意味だ。逃げるのは……速く走れるなら可能性はある。ともかくヤツらは容赦がない。対抗できるのは炎だ。炎だけがヤツを倒すことができる。

### ファッティ/ 肥大体



ファッティは……まあ、太った屍者のことだ。だがあの脂肪の塊は、単なる金持ちや貴族じゃない。他の屍者と同じく、痛みは感じないが、倒すには強靱な腕力で叩き潰すか、魔法を使う必要がある。炎でもいい。うまく立ち回って永遠の眠りにつかせるんだ。



## ネクロマンサー/死霊術師



森に迷い込んだ子供をさらう死霊術師のおとぎ話は、誰だって知っている。勝手に森に行かないようにと、子供たちに言い聞かせた、おとぎ話だ。大人たちは、誰も信じていなかった。どこから来たのかも、何が目的かは誰も知らない。……もしかすると自分たち以外の生きとし生けるものを、全て殺し尽くしたいのかもしれない。どうにかして屍者化を防ぐ術を知っているようだ。まあ屍者たちを操っているんだから、当然と言えば当然だ。見つけ次第、殺すんだ。遺体も灰になるまで焼くんだ。

## 屍狼/ゾンビウルフ



今こそわかった。狼こそが、屍者襲来に至る最初の兆しだったのだ。狼は狩りもするが、死にたての肉があればそれに越したことはない。屍肉あさりのほうが手

間がないし、小規模の群れでも、はぐれクーガーぐらいなら追いはらうことができる。ふらふら歩きの群れに出くわしたなら、そしてそれが屍者であったのなら、あれほどたやすい獲物を、狼が逃すはずもなかった。だがその感染した屍肉を食べたのだとしたら……こうして狼の変異が始まった。一山越えた先に住む老ドルイドが、俺たちに「何か奇妙なことが起きている。注意を怠るな」と警告してきた。だが遠くまで出歩く狩人の幾人かは、その警告を無視した。そしてひとりも戻ってこなかった。代わりに屍狼がやってきた。仲間の屍者ととともに、街を闊歩している。

## 変異屍狼/ウルフボミネーション



おとぎ話の大きな悪い狼は、実在する。まさしく、血に飢えた悪夢そのものだ。群れのボスが屍狼になったのか、醜悪な実験の産物なのか？ ウルフボミネーションの誕生秘話は誰も知らない。だがひとつだけ確かなことがある。見かけたら可能な限り距離をとれ。竜の胆汁は、何があっても奴のために残しておくんだ。